



特集

いわて平泉の大地から 新鮮野菜をお届けします！

J Aでは「J Aいわて平泉ブランド」を消費地へ浸透させ、消費者から信頼を得られる産地形成を目指しています。夏を迎え、J Aが看板の一つとして掲げる夏秋野菜の本格的な出荷が始まりました。今回は、野菜品目での取り組みについて紹介します。

J Aは「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」を第5次中期経営計画における最重点施策の一つに掲げています。各品目において生産者は収量拡大に励んでいますが、近年頻発している鳥獣被害や天候などの影響による減収、生産コストの上昇が続いていることから、収穫量増大とともに、営農基盤を支えられる価格検証や、販売先・消費地へ向けたPRなど、収益向上につながる施策が改めて必要となっています。

園芸生産者の所得拡大

生産者支援

安定集出荷業務

産地基盤の確保

販売価格の確保

生産技術向上

野菜出発式で販売の好調を祈願

J A は6月19日、野菜出発式を一関市藤沢町のJ A 南部園芸センターで開きました。生産者や行政機関、市場関係者など約50人が出席し、野菜品目を取り扱う8部会の令和8年度販売金額目標を17億2523万円と掲げました。J A の那須元一代表理事専務は「生産者の皆さまの努力により、高品質で安全・安心な野菜を出荷できることをうれしく思う。これから出荷する野菜が、市場や消費者の皆さまから高い評価を頂き、『いわて平泉』という産地の信頼とブランド力の向上につながることを期待する」とあいさつしました。

出発式ではJ A 野菜協議会の村上真会長が決意表明を述べた他、夏秋野菜が積み込まれたトラックの前で関係者がテープカットをして出発を祝い、参加者の万歳三唱で消費地へ向かうトラックを送り出しました。



壇上に並ぶ各生産部会長



トラックに積み込まれる野菜



参加者全員で万歳三唱



テープカットで出発を祝いました



決意表明するJ A 野菜協議会村上真会長

安全・安心でおいしい野菜を、シーズン終了まで消費者の皆さまにお届けできるよう、部会員一丸となって生産販売に取り組めます！



あいさつをする那須専務

生産基盤強化に向け野菜協議会設立

J A管内では、各生産部会が収益向上や産地確立に向けて精力的に活動しているものの、生産者の高齢化や離農者の増加などにより生産基盤の弱体化が進んでいる状況です。この現状を打破し、野菜産地として発展していくために、J A野菜協議会を令和8年3月に設立しました。9つの生産部会（トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ミニトマト、イチゴ、ネギ、シイタケ、野菜）が参加し、協議会は各部会の事業運営や意思決定などには介入せず、全体の連携と支援を行います。

初年度となる令和8年度事業計画では、

- ① 生産力の強化による生産量確保
- ② 人材育成と継承による産地維持と発展
- ③ 販売力の強化による収益の拡大

の3点を基本事業方針に掲げ、産地振興に取り組みます。



野菜協議会設立
総会の様子

令和8年度野菜主力品目の作付状況と販売計画

	面積 (a)	生産者数 (人)	目標数量 (t)	販売金額 (千円)	前年出荷 金額対比 (%)
トマト	1,406	94	1,288	580,000	110.3
ピーマン	1,419	169	980	490,000	120.6
ナス	940	61	674	235,620	104.8
キュウリ	833	74	766	256,570	107.0
ミニトマト	142	28	64	50,000	106.2
ネギ	794	50	122	43,700	125.4
イチゴ	140	13	31	56,000	101.2
原木シイタケ	—	22	1	8,800	120.5
菌床シイタケ	—	12	42	37,800	105.9